

リレーエッセイ「心に残るあの句・あの時」

③

初めての「5・7・5」

葛飾区立木根川小学校 木原小百合

あさがおのじゃんぐるぐるぐるめがまわる

昨年度一年生の担任をした時に、初めて作った俳句は「あさがお5・7・5」でした。

「俳句」とは言わずに「5・7・5」という言い方で俳句を教えました。

生活科で、教室に置いた同じあさがおを二十二人の子供たちと囲み、「5・7・5」を作りました。手で触ったり、においを感じたり、色や大きさをよく見たりして、指をひたすら折りながらリズムを口ずさみ、ひらめいた人からすぐに書かせました。

すると、みんなに優しくて明るいTさんが、この句を書きました。さっそく私がみんなに披露すると、もうみんな大笑い。

今思えば、この句を披露したときから、俳句の面白さが一気に子供たちにわった



気がします。

俳句勉強会紹介

勉強会には私たち教師も、俳句作りを体験して、俳句指導に役立てようと始まった会です。月々の高得点句を紹介します。

二月勉強会

薄氷踏む少年の小さき嘘

渡邊 樹音

一月の吐息は夜の飛行船

山本 新

三月勉強会

立春の駅舎に匂ふメロンパン
春の雪書き残したる文のあり
ポケットの中菜の花の空気感

荒井ハル工
加藤 誠則
早瀬 恵子

四月勉強会

花びらはあと一枚のチューリップ
スニーカー紐変えてあり新学期
くれよんの背丈揃えて新学期
清明や顔のわからぬ座席表

松本 芳明
上澤 篤史
山本 新
山本 純人

五月勉強会

蜜豆や校則多き女学校
追いかけて瞬きもせずしゃぼん玉
ベルマーク切り取る母や昭和の日
山笑う僕の分度器だけずれる

荒井ハル工
下山桃子
菅原晋也
木原小百合

【編集後記】

梅雨の季節がやってきました。俳句と出会うまでは鬱陶しいと感じることの多かった梅雨。俳句に出会ってから雨に濡れる紫陽花、田の一面の緑など美しさを感じるが増えました。わがクラスの子ども達にも「大人も読みたい子ども歳時記」を使って、季語を伝える時間が増えていきます。

6月の大イベント、18校で行われる日光宿泊学習にも歳時記を持参し、俳句づくりを楽しみたいと思っています。

足立区立鹿浜第一小 松本 芳明

【日本学校俳句研究会】

<http://gakkouhaiku.sitemix.jp/>

連絡先 江東区教育委員会学校支援課

学校俳句研究⑦

発行日平成二十六年六月十日／日本学校俳句研究会

◆代表☆小山正見

◆編集者☆松本芳明 下山桃子 山本新

学校俳句研究 No.7

☆日本学校俳句研究会☆会報 平成26年6月

百点のない世界に可能性は隠されている

日本学校俳句研究会 幹事 山本 純人

子どもたちに俳句が好まれる理由の一つは、「百点がないことかな」と、ときどき思う。学校の勉強の多くは、正解を考えることに主眼が置かれている。しかし、俳句を生み出すときには、同じように考えるが、正解の百点がどこにあるかは、誰にもわからない。

その「わからなさ」に、子どもたちは、ついつい惹かれ夢中になっていく。そんな姿を、ここ数年間見続けてきた。

○×のない俳句という世界は、子どもたちにとって大人以上に新鮮なのだろう。一枚の紙と鉛筆で、自分の世界がくれちやうツールが、俳句なのだ。正解の百点もないし、逆に不正解の零点もない。自分がいいなと思う「こと」や「もの」を俳句にする。担任の先生から、「その俳句、いいね！」なんて言われた日には、帰り道のスキップも、きつと大きくなるだろう。俳句に点数なんて、いらぬのだ。

以前、教え子に「俳句をやって何がよかった？」とアンケートを取ったことがある。回答に、「季節に、敏感になった。」という記述が多くあった。すーっと風が吹いても、それは季節の風となり、蛇口の水が冷たくなっても、ふと季節を感じちやう。お店に並ぶ果物や野菜の中にも、本当の「旬」を感じる。俳句は、季節を感じるアンテナの精度までも、確かに上げてしまうツールなのだ。

もうすぐ季節が、ぐつとかわる。そんなときに季節を感じる子が、一人でも増えることを願ってやまない。なぜなら、そのことは「子どもの可能性」が広がっている証でもあると言えるからだ。

埼玉県立所沢高等学校 (前 川越市立福原中学校)



俳句の日常化

二年生を担任して
います。学校生活に
も慣れ、友達とのか
かりもますます活
発になってくるこの



頃の子供たち。生き物や自然を相手に、
様々なことを遊びとして楽しんでしま
うこの頃の子供たち、俳句はそんな子供たち
の感動を表現する手段として大変有効で
す。俳句を表現方法のひとつとして気軽に、
日常的に取り組むことで、自然や人とのか
わりをより豊かなものにしたという
ことが、今年の私の学校俳句の課題です。

①「くひもやう」でも俳句

育てているミニトマトの観察などで
「十個のみる」に気を付けさせていま
す。「色や形をよく見る・うらから見る・
さわってみる・はかってみる・くらべて
みる・かいでみる・あじわってみる・か
ぞえてみる・きいてみる・かんがえてみ
る」子供たちはこの十のみるを意識しな
がら観察カードにせつせと書き込みま

す。観察が終わった子供たちに俳句を作
ってごらん、と投げかけると、この観察
カードの言葉の中から五七五を細ぎ出
し、観察カードのはしに書き記していま
す。俳句の時間を特別に設けなくとも俳
句はすぐにできます。

ミニトマトお花の下がでぶっちょだ

トマトちゃんすぐにすぐにさくかもよ

トマトのねくきが四つにわかれてる

花さいておいしくなあれトマトくん

②学校のお気に入り的一句

のぼりぼうやうんてい、てつぼうなど、
お気に入りの遊具や場所が子供たちには
あります。そこから発想を広げて一句作り
ました。お気に入りを選び、その言葉
を使って五七、または七五を作ります。そ
の際、例えばタイヤ跳びを選んだ子には
「〇さんはタイヤをどうやって跳ぶの？」
「そのときどんな気持ち？」など、その子
なりの言葉が出てくるよう投げかけてみ
ます。次に、びったりくる夏の季語を当て
はめてできあがりです。俳句には一物仕立
てと取り合わせがありますが、こちらは取
り合わせの俳句が多くできます。

おにごっこつかまらないよ夏の空
夏休みあそべないのはのぼりぼう
トラックをいっしゅうまわり夏のごご
たいいくぎもうかわいたよ夏の空
しんぴんのクレヨンもってさくらんぼ
すべりだいいますべろうか夏のあさ

③句会を楽しむ

なんととっても句会を楽しむことで、学
校俳句には様々な効果があります。友達の
俳句を選ぶことも、俳句上達の大切な力に
なりますし、良さを褒めたり、褒められ
りすることで、結果的に子供たちは仲良
くなります。つまり学級経営的な観点から
も句会は大変有効です。先日は「空豆句会」
と称して、生活科で行った空豆のさやむき
体験の俳句で句会を行いました。初めての
句会でしたが、とても盛り上がりました。
そらまめやなっとうあじがしたんだぞ
そらまめやぶにゆぶにゆしておいしいよ
このような実践の積み重ねにより、俳句
が子供たちの生活に沁み込み、先生お休
みの日に俳句できたよ！などの報告がた
くさん聞かれるようになりますと嬉しいで
す。

(日野市立仲田小 下山 桃子)

初心者でも始められる俳句指導 〜学級での取り組み〜

① 新聞に応募してみる楽しんで

毎週、楽しみにしていることがある。それは、木曜日の朝日小学生新聞と金曜日の毎日小学生新聞である。朝小には「春夏秋冬楽しく俳句」の子ども俳句選コーナーがある。

その隣には、「句を作りたくなる風景」の紹介がある。紫陽花、茶畑など、毎回児童に読んで聞かせている。私も知らないことが出てくるので勉強になる。

毎小の俳句王（はいきんぐ）コーナーには、虫食い俳句と自由題の句の2つがある。虫食い俳句は、今日の一題として「○○○○5月の風が吹いている」「つくしんぼ青空めざし○○○○」などのお題が出て、その埋める言葉を考える。クラスでは、児童名簿に「お題」を書き、横黒板に貼り付けておく。児童には、思いついたら書いておくように！と伝え

ておく。記事を配布するのでそれを参考に次の休み時間や翌朝には埋まってくる。書いてない子には発破をかけ、全員応募で投稿する。楽しく楽に応募するコツは、応募用封筒と宛名書き、そして応募用投句用紙を先に作っておくことである。

② 俳句もね 日常的に、継続を

今年から研究主任になり、朝学習の週一回は、「ことば」に関する活動をするようになった。新聞スクラップや俳句、一〇〇マス作文などに取り組む。この短作文の実践では、書いた文章を五七五にまとめる枠もセットになっているから、俳句作りとの相性もいい。

学校では、年数回「俳句集会」が開かれる。各クラスの代表一名が体育館舞台の壁に大きく映し出された自分の俳句を読む。すると、黒縁メガネに髭、白衣を着た俳句博士が登場し、一句ずつ講評していく。校長から始まった博士は、指名制で選ばれ、教師も勉強することになる。

また、春夏秋冬新年の五回は必ず俳句を作り、廊下掲示することになっている。各担任には、千葉の加藤先生が作成している「〇月の季題」ワークシートを配布させて頂き、季語と児童作品を参考にしながら、俳句指導を勧めている。

③ 通勤中 目にするものが変わります

小山先生の出前授業を体験し、俳句勉強会に参加するようになり、俳句指導が楽しくなりました。

さらに、俳句に関する本を読むようになると、二十四節気や七十二候に関心が広がり、気候や伝統行事と深く結び付いている事に驚きました。通勤途中の植物をゆっくりと眺めるようにもなりました。

都会でも自然や生き物が、身近に多く残っていることを改めて感じています。

